

専門科目履修モデル1 「文学コースで古典文学を研究する」

学年	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	取得単位	卒業必要単位数	
必修科目	大学での国語力	2	日本文芸史ⅠA・B	4			卒業論文	8	30単位	30単位	
	日本文芸学概論A・B	4	文学概論A・B	4							
	日本語学概論A・B	4	日本文芸史ⅡA・B	4							
選択必修科目	ゼミ		ゼミナール	4	ゼミナール	4			8単位	8単位	合計 38 単位 以上
	特講	(1)上代A・B	4	(3)中世A・B	4	(10)演劇A・B	4		24単位	24単位 以上32 単位以下	
		(2)中古A・B	4	(4)近世A・B	4	(11)音楽芸能史A・B	4				
選択科目	ゼミナール入門	2	古文・漢文の基礎	2	中国文学史A・B	4			12単位		
			美術史(日本)A・B	4	書誌学	2					
コメント	<p>「大学での国語力」は、調査力・発表などを鍛えるために必須の授業です。また、「日本文芸学概論A・B」と「日本語学概論A・B」は、3年次までに履修しないと4年次に進級できない科目です。1年次のうちに修得しましょう。選択必修科目の「特講」は、12単位まで履修できます。上代・中古・中世・近世の中から履修しましょう。また、「ゼミナール入門」は、2年次からの「ゼミナール」のための準備となる授業です。履修することを強く推奨します。</p>		<p>2年次からは、選択必修科目の「ゼミナール」が始まります。1年次の秋に行われるゼミ選抜によって所属ゼミが決まり、それによって所属コースが決定されます。文学コースに所属すると、「日本文芸史ⅠA・B」以外に、「文学概論」と「日本文芸史ⅡA・B」が、必修科目となります。文学を通史的・俯瞰的に学ぶ授業です。履修しないと卒業できない科目なので、2年次のうちに履修しておきましょう。選択必修科目の「特講」は、上代・中古・中世・近世・漢文の中から履修しましょう。</p>		<p>順調に履修できていれば、3年次には、ゼミナールでの学習も2年目となり、卒業論文で取り上げたいテーマが徐々に固まって来る時期でしょう。3年次には、様々な時代・様々なジャンルを学んでおきたいものです。古典文学で卒業論文を書くとき、近代批評の方法や外国文学研究の方法は必ず役に立つはず。選択必修科目の「特講」の中には、近代・現代のほか漢文・詩歌・演劇・特域など、時代や国をまったく授業が用意されています。3年次は、視野を広げる時期と考えてください。</p>		<p>3年次末の時点で、ゼミナールの単位数が0の場合は、4年次に進級することはできません。4年次には、卒業論文に取り組みます。卒論は、これまで培った調査力・思考力・表現力などを結集する、学業の総決算です。卒論の作成によって、8単位を取得することになります。4年次までに、卒業に必要な単位数を満たしていれば、4年次には、学んでおきたい科目を比較的自由に履修できます。日文科以外の専門科目や自由科目も履修できます。大学生活最後の1年を有効に活用してください。</p>		<p>日文科の専門科目では、上に挙げた必修科目と選択必修科目、選択科目以外に自由科目を8単位以上履修する必要がありますが、取得単位で注意しなくてはならないのは総単位数です。必修科目や選択必修科目等の必要単位数を満たしていても、総単位数で卒業必要単位数を満たしていないことがあります。「～単位以上」となっている科目に気をつけて、とくに4年次には必要単位数だけでなく、総単位数に注意して履修してください。</p>		

学部専門科目は、1, 2年次の履修上限が42単位なので、ここに記載されている2年次の科目をすべて2年次のうちに履修できるわけではありません。上限を超える場合は、3年次に履修してください。